

堀江さん「太平洋ひとりぼっち」

韓国の学者 翻訳出版

海洋冒険家の堀江謙一さん

(71)兵庫県芦屋市IIの著書「太平洋ひとりぼっち」が韓国で出版された。内容を偶然知った韓国の学者が「パソコンにかじりついている国内の学生に、堀江さんの知恵と気概を伝えたい」と翻訳し、出



呉宣姪さん

版実現に力を尽くした。

堀江さんが「太平洋ひとりぼっち」を出版したのは62年。清州大名誉教授(法学)、呉宣姪さん(74)が本のことを知ったのは04年だった。故・石原裕次郎さんが主演した映画「太平洋ひとりぼっち」を衛星放送で見たのがきっかけだった。

日本の友人に原作を送ってもらって読むと、「冒険好きだけでなく、計画の緻密さ、危機対応能力、大胆さと



昨年、波の力だけで進む船でハワイ―紀伊水道の航海に成功した堀江謙一さんII08年7月5日、和歌山県沖

慎重さを兼ね備えているのが分かり、おもしろかった」。翻訳したのは、自国の大学生に不満があったから。かつては「国のために」という気概があったが、最近では本やパソコンに向かってばかりで、人生への意欲を感じないという。10歳まで東京で過ごし、

日本語は堪能だ。それでも関西弁には悩まされた。堀江さんが時々使う「ゴツツオハンデ(ごちそうさまで)」はどろしても分からず、本人に電話して尋ねた。

出版社の反応は鈍かった。堀江さんがミッドウェー島近海で太平洋戦争の犠牲になっ

た日本兵に思いをはせる場面に、難色を示した社もあった。ようやく1社が関心を示し、初版2千部を刊行した。呉さんから贈られたハンゲル版を手にした堀江さんは「ずいぶん昔の話なので思ってもいなかったが、驚きと喜びです」と話した。(浅倉拓也)